

## NGO フランシスカンズ・インターナショナル関西 レポート No.3

## 総会が開かれました

1月30日(日)、宇治・六地藏の岩橋宅で16名の出席で開かれました。

## それぞれの現状の紹介

この会は3回目ですが、いつもながら本当にバラエティに富んだ人の集まりです。若い人から年配者まで、関西一円の遠くから近くの人まで、司祭、修道女、信徒、一般と。環境についてかなり長いベテランから、最近目覚めた人まで。自己紹介をかねて、環境について自分が強く感じたり取り組んでいることを出し合いました。この会はいろいろな人が一緒に活動するものなので、お互いの立場を配慮して話は進みました。なごやかな楽しい話でしたが、ここで出た話は後ほどパーティのときもっとにぎやかに深く入った話になりましたので、そこで紹介します。

## 割り箸の整理と箱詰め作業

今回はエプロンと軍手とマスクをみんな持参しまして、岩橋宅で集めた割り箸を整理する作業を行いました。雨はほとんど降っていなかったのですが、もし降っても大丈夫なようにと近所のガレージに案内されて驚いたのは、割り箸が「がさっと」置かれた大きい山でした。高さが1メートルくらいの山が3つほどありました。近所の方が数人もう作業を始めておられましたが、私たちは持参したとりどりのエプロンを付け、(中にはとてもよく似合うかわいらしいエプロンを付けた人もいました) その大きい山の回りを取り囲み、思い思いに割り箸を少しずつ崩して、きちんと束ねるように揃えて段ボールに入れていく作業です。もし整理せずにそのまま段ボールに入れたらかさばるだけで箱が沢山必要であり、輸送費もかかります。まとめながらも竹の箸が目についたらとり除きましたが、それはほとんどありませんでした。

幸い冬場のことでカビもそうなく、みんな十分乾燥しているものでしたが、それをしゃがんで一握りずつ取ってきて向きと両端を揃えるのです、最後に近くなると山も見ると小さくなっていき、とうとう全部整理を終わりました。大きい段ボールに何個もきっちり詰め込んで、宅配業者の車に乗せておしまいです。十数人が一生懸命やって40分かかりました。これは、一人でやると丸一日かかります。中腰で作業したためもう立ち上がるのに「どっこいしょ」。

## 親睦パーティ

## 持ち寄りの食べ物・飲み物

事前に参加予定者に、みんなで分け合うから一人分の何か・何でも良いから持ちようではないかという連絡がありました。さあ、何がいいかなといろいろ考えを巡らせたのでしょ、一汗かいた割り箸の作業が終わった後、広げた持ち寄りの料理、飲み物を見てあっと叫びました。いつものことながらお互いの気配りで盛りだくさんの料理が集まりました。

飲みながら食べながら和やかなうちに話が盛り上がりました。そのうちいくつかをご紹介します。

## EMの話 (イー・エム: Effective Micro-organisms の頭文字をとったもの)

EMというのは、そのファンの間では少しずつ広がっている、まあ植物の促成栽培の肥料のようなものです。そこらでは見かけませんが、市販されているこのEM液を、花壇や菜園にやると、役に立つ微生物の働きで、成長が早かったり品質の良い物が多くとれるというのです。農業に応用すると収穫量は驚異的に増大するともいわれます。10年ほど前に琉球大学の比嘉教授が開発しましたが、これまでの微生物学を根本から変えるような革新的なものなので、保守的な日本の生物学会ではまだ認められず、また一部勢力によって農業への普及が妨害されているといわれているようです。現に私が京都でも最大の書店の一つに入って、農植物の関係のコーナー、環境のコーナー、趣味の園芸のコーナー、と1時間ほど探して最後に健康のコーナーでようやく一冊、EMが入った清涼飲料を飲むとガンが治るという衝撃的な本を見つけただけでした。

このEM液は、乳酸菌とか酵母菌とかこうじカビなど、私たちが毎日口にしている漬物、味噌、醤油、酒などを作る微生物を80種類ほどブレンドしたものとされています。このEM液を実際に使っている人から、その効用が紹介されました。少し高価な液体(1リッター2千円くらい)ですが、しかしわずかな量を薄めて作物に撒くだけでいいのです。ところがそれだけでなく生ゴミの処理にも、排水の浄化にも役に立つというのです。確かにゴミなどが腐敗でなく、良質の発酵に変われば浄化になるでしょうね。

### 割り箸について

今日体験した割り箸の回収は、量が少なくでは意味がないし、量が増えてくるとなかなか大変です。いろいろな苦労話が出されました。

一月100キロにもなると、置き場所も大変です。教会の片隅を借りる話がついて、置いておいたところ、近所の人からクレームが付きまして。もし悪意のある人がいて火を付けたりすると、簡単に燃え広がって火事になるではありませんかというのです。また今日は寒い時候だから匂いもなかったのですが、夏場では虫は寄ってくる、匂いもする。それを整理するのはもっと大変です。

製紙メーカーは良質の紙の原料を手に入れるわけだから、例えば割り箸の整理をホームレスの人たちにお願ひするとか、いろいろ出来るのではないだろうか。

学生食堂で割り箸を塗り箸に変えた話とか、塗り物が特産の町で行政が音頭をとって割り箸を使うのを止めようという運動をしたら割り箸メーカーからクレームがついたという話も出ました。塗りの箸は年を取るとどうしても指先の動きがぎこちなくなるとよく滑り、なかなか掴みにくくなるのです。そのためには塗りの箸の先端の挟む部分をざらざらにして滑らないような箸も出ているそうです。

カトリック教会の中でみんなに呼びかけても、なかなか一緒にやろうという人は出てこないですね、これは割り箸の回収だけでなく環境問題全体についてもいえることですが、これまでの教会は生活から離れてお祈りだけしているようなところがあるのは残念ですね。

割り箸の回収は割り箸を使わない運動ではなく、割り箸の良さを認め、使った後の資源を有効に使うことで紙を作るために新しい木材を切り倒すことを少しでも減らそうという活動です。経済的な面だけで見ると、回収し、乾燥し、整理し、荷物にして送るには随分と人手を使うので、採算がとれるとは言えない活動です。しかし、割り箸の回収を呼びかけることで一人でも多くの人が割り箸を見たら「そのまま捨ててしまうのはもったいない」という、資源を大切に感じる感覚を育てるとてもいい活動の一つです。

### 環境を守る運動について

地球村のあの高木善之さんの話を、日本の修道女連盟の総長・管区長会議で聞いたそうです。すばらしいですね。多くのシスター方が地球という宇宙船に目を開き、これから地球を守るために動き出すことが出来れば大きい力になることでしょう。京都のカトリックでも高木さんと呼ばないですかねえ。

カトリック教会の今年の大聖年のテーマに、京都南の西ブロック（西院・九条・桂・長岡）では「環境」を選びました。処理場の見学などをやります。北ブロック（衣笠・西陣・小山・宇津・山国）では、物の環境だけでなく苦しんでいる人のことも考える「人と物の環境」をテーマを選びました。

環境を守るには、いま日本の行政が力を入れているリサイクルというのは方法として4番目なのですね。一番良いのは「使うことを止めること」、次いで「減らすこと」、「再利用すること」そうして最後に集めてつぶして部品や原料に戻してもう一度製品を作り直す「リサイクル」なのですね。行政がやることだから、なかなか「止める」なんて出来ないかも知れないが、個人個人でいくらがんばって止めたり減らしたりしても限界を感じます。やはり政治を動かし、行政を動かさないと環境は良くなるのではないのでしょうか。いえ、でもね、市や町がいくら資源を有効に使いましようと言ったところで一人一人がやらなければ、結局環境は良くなるのです。だから個人個人の活動を積み上げて行政を変えるようにすることも大切、結局両方の働きかけが必要なんでしょうね。こつこつとやりましよう。

### 一人一人の取り組み

合成洗剤の使用を減らすためだけでなく、手作りのカナの石鹸、アロエの石鹸など皮膚に良く、油ものもよく落ちたりするものを使っています。EMも一人一人、割り箸も一人一人。またスーパーには買い物袋持参、トレイや牛乳パックなどの回収協力など出来ることは沢山あります。参加の一人一人がこのようなことを紹介しあうので、自分もやってみようという気になりますね。

参加者は次の方々でした ひさしぶりに盛況

安藤、飯山、岩橋、岩橋、江端、岡崎、奥田、阪下、志多伯、清水、チネカ、内藤、中村、フランシスカ、元村（司祭もシスターも交えてアイウエオ順）

### 次回のご案内

3月5日(日)午後2時から、フランシスコの家で行います。

発行責任者 ライト・オカ神父 (NGO フランシスカ・インターナショナル日本・関西支部 代表者)  
〒600-8391 京都市下京区佐竹町 388 フランシスコの家 TEL・FAX 075-822-2369